



Letter for Members

日本補綴歯科学会
ほてつ

Japan Prosthodontic Society

<http://www.soc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 川添堯彬

編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9 (財)口腔保健協会

TEL 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

平成 15 年 2 月 10 日発行

コンテンツ

本学会と大韓歯科補綴学会との学術交流協定が締結される	1	本学会誌に倫理規定制定される	10
韓日学術交流協定式	2	第 109 回学術大会案内 (予報)	11
KAP との協定書の紹介	2	第 110 回学術大会案内 (予定)	11
本学会と KAP との共同学術大会開催される	2	支部学術大会のお知らせ	11
この 2 年間を振り返って	5-7	海外研究機関の紹介	12, 13
平成 15, 16 年度役員の紹介	8	関連学会案内	13, 14
第 108 回日本補綴歯科学会学術大会報告	8	関連国際学会案内	14, 15
課題口演優秀賞受賞者紹介	9	関連学会報告	15
デンツプライ賞受賞者紹介	9	関連国際学会報告	15
名誉会員紹介	10	新指導医・認定医紹介	15
欠損に代わる病名について	10	新入会会員紹介	15, 16
認定医ケースプレゼンテーションの現況	10	編集後記	16
論文に「認定医症例報告」追加される	10	ニュース	5, 9
		広告	6, 7, 11, 14

本学会と大韓歯科補綴学会との学術交流協定が締結される



協定書を取り交わす川添堯彬会長と Dae-Gyun Choi KAP 会長

第 106 回学術大会から始まった本学会と大韓歯科補綴学会 (KAP) との学術交流をより強固なものにすべく、「日韓国民交流年」の記念の年に、本学会は大韓歯科補綴学会との学術交流協定を締結しました。

調印式は、平成 14 年 11 月 28 日 (木) に釜山の釜山ロッテホテルにおいて、両学会から約 30 名の参加者を得て行われました。本学会からは、川添堯彬会長をはじめ 9 名の先生方が出席しました。大韓歯科補綴学会からは、Dae-Gyun Choi KAP 会長をはじめ KAP 役員および歴代会長のほとんどの先生方が出席されました。

今回のニュースレターでは、調印式の模様、正式に本学会と KAP との共催となる秋季 KAP 学術大会、次期役員などについて報告いたします。

韓日学術交流協定式

調印式は、両会長による協定書への署名からはじまり、Dae-Gyun Choi KAP 会長、川添堯彬会長の挨拶の後、前会長 Heun-Taik Jhee 先生による流暢な日本語による祝辞が述べられ、次いで、赤川安正学術委員長から祝辞がありました。その後、Jung-Suk Han, 古谷野 潔, 両学会の国際渉外委員長から参加者の紹介がありました。

調印式の後、大韓歯科補綴学会主催により、協定締結を記念して釜山ロッテホテルにて盛大な祝宴が行われ、最後に参加者全員の集合写真の撮影があり、両学会の今後のさらなる協力関係を約束し、解散しました。

KAP からは、以下の先生方に加えて歴代会長、理事の先生方が参加されました。

Dae-Gyun Choi (President)
In-Ho Cho (Vice president)
Moon-Kyu Chung (Vice president)
Sang-Wan Shin (Vice president)
Soon-Ho Yim (Secretary)
Keun-Woo Lee (Academy affairs)
Chang-Young Ahn (Treasure)
Jung-Suk Han (International liaison)
Ju-Hwan Lim (Public information)



調印式で挨拶される Dae-Gyun Choi KAP 会長

KAP との協定書の紹介

日本国日本補綴歯科学会と大韓民国大韓歯科補綴学会は双方協議に依り、両学会間の学術交流および友好、協力関係を樹立しようと合意して、この協定を締結する。

第1条 両学会はこの協定の実施に際して友好、平等および相互理解の精神で十分に協議して、お互いに相手の学会の制度を尊重する。

第2条 上記に明示された目的を実現するために双方に対等な原則と自国の法律および会則に違反しない範囲内で下記事項の実施に努力する。

1. 学術大会の共同開催
2. 研究に必要な資料と図書の交換
3. 共同研究計画の推進
4. 研究者の相互交流

第3条 本協定書の具体的内容に関しては細則を定める。

第4条 本協定書の有効期間は3年として、以後双方どちら側でも相手側にこの協定の解消を提議していない限り、本協定は自動的に継続、効力を有していることとする。

万一どちらかの一方が協定の廃止または変更を提議する時には、提議日から両者合意の下に六カ月後に廃止または変更する。

第5条 本協定書は日韓両国語で作成して双方の代表者が署名、捺印を行うと同時に双方効力をもつこととする。

本学会と KAP との 共同学術大会開催される

2001年の秋季 KAP 学術大会から、本学会の会員による発表が行われるようになりましたが、今年度の秋季 KAP 学術大会は、両学会の学術交流協定調印後の学会ですので、実質的には第1回目の共催学会にあたります。本学会を代表して赤川安正教授（広島大学大学院）により、「Innovative concepts and technologies applied to dental implants」と題して、特別講演が行われました。

本学会からは9題のポスター発表がありました。2001年度の秋季 KAP 学術大会から、Poster presentation award が設けられ、第1回目は龍田光弘先生（大阪歯科大学）が受賞されましたが、今年度は加藤大輔先生（愛知学院大学歯学部）が受賞されました。



調印式に参集した本学会および KAP 役員



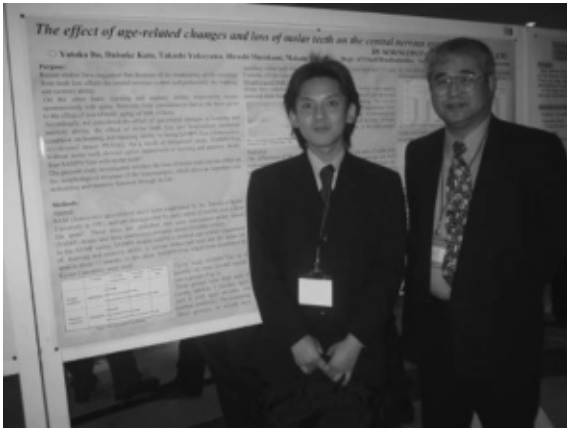
本学会からの出席者。左から荒川一郎先生（日本歯科大学歯学部，小林義典教授代理），萩原芳幸国際渉外委員（日本大学歯学部），古谷野 潔国際渉外委員長（九州大学大学院），伊藤 裕医療問題検討委員長（愛知学院大学歯学部），岸 正孝会計委員長（東京歯科大学），川添堯彬会長（大阪歯科大学），赤川安正学術委員長（広島大学大学院），山内六男広報委員長（朝日大学歯学部），築山能大国際渉外委員会幹事（九州大学大学院）



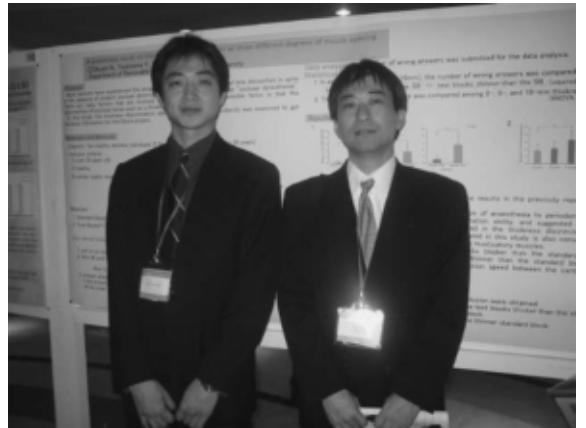
特別講演後にプラークを贈呈される
赤川安正教授



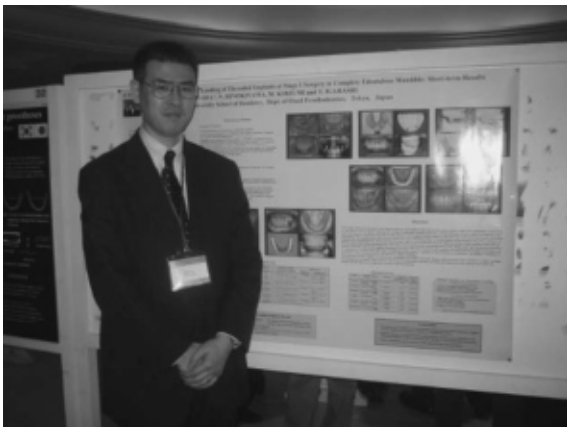
鷹尾智典先生，藤井孝政先生，西川 学先生，
川添堯彬会長，佐藤正樹先生(大阪歯科大学)



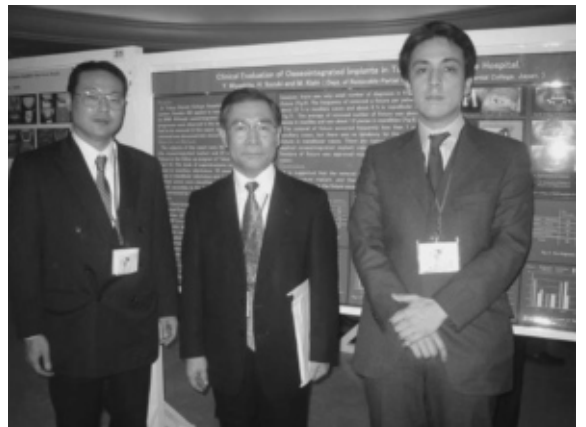
加藤大輔先生，伊藤 裕先生
(愛知学院大学歯学部)



大串奈津貴先生，築山能大先生
(九州大学大学院)



萩原芳幸先生 (日本大学歯学部)



鈴木浩樹先生，岸 正孝先生，宮下有恒先生
(東京歯科大学)

この2年間を振り返って

昨年度から、川添堯彬会長のもと、各種委員会
は執行部の掲げた重点目標に沿って活動してきま
した。そこで、今年度最後のニュースレターで
は、各委員長にこの2年間を振り返って感想を書
いていただきました。

学術担当理事：赤川安正（広島大学大学院）

学術委員長として大変エキサイティングな2年
間でした。川添会長の力強いバックアップとすば
らしい学術委員に恵まれ、また各大会長の深いご
理解もあって、委員会ではメインテーマとそれに
沿う学術プログラムを思う存分企画させていただ
きました。新しい形の臨床シンポジウムや技術・
技工セッションも開催でき、会長の目指す新しい
方向性をもつ学術大会ができたかなと思います。
各方面から『補綴学会が変わってきた』といわれ
るにつれ、その方向性を絶えず自省してきました
が、もとより結論など出るはずもなく、さらに次
期の委員会につながっていくことでしょう。また、
懸案ともいえる学術大会のあり方についても
意見集約ができ、「大会のしおり」の改訂と併せ
てなんとか道をつけることができそうで安堵して
います。このような達成の原動力となった学術委
員のメンバーに感謝するとともに、ご支援いた
だいた会長と会員各位にお礼を申し上げます。

編集担当理事：細井紀雄（鶴見大学歯学部）

今期編集委員会の最大の仕事は、なんといっ
ても英文誌の創刊でありました。委員会では、表紙
デザインの作成から雑誌の構成にいたるまで、多
くの意見を交換しました。心配だったのは論文数
でしたが、15編の投稿があり、胸をなでおろし
ました。次に論文の質の確保でしたが、各委員に
精読して頂き、さらにネイティブスピーカーによ
るリライトを繰り返して、読みやすい英文に仕上
げることができました。創刊された英文誌を手
にしますと少し日本式の体裁になりすぎた感もあ
りますが、愛情を注いで作成した英文誌が、伝統
ある補綴歯科学会のグローバル機関誌として成長
していくことを願ってやみません。

会計担当理事：岸 正孝（東京歯科大学）

会計委員会では本学会の活動が円滑に進むよう
に、また、適正な経理状態を維持するように側面
からの支援を行ってきましたが、現執行部のまと
めの年度であるために支出が多く、いろいろと悩
んでいます。赤字決算を避けるべく努力しています。

学術大会が盛況なことは結構ですが、それに
応じて開催費の漸増傾向がみられ、大会の参加費
で開催費を賄うのがきつくなってきました。大会
の開催方針についての検討が進められていますが、
開会開催費についての検討も進める必要があります。

法人化準備委員会の見解では、社団法人につ
いて検討を進めるようですが、社団法人化および
その維持には相当な経費がかかると予測されます。
次期執行部には、本学会の会計について抜本的な
検討を行っていただく必要があります。

教育問題検討委員会委員長：川崎貴生（北海道
大学大学院）

教育に直接的に関与している会員といえ
ば150から200名程度しかいないため
でしょうか、会員からの反応があまり
なくて、戸惑った2年間だったよ
うに思います。「歯科補綴学教育基
準 改訂2001」は補綴誌第46巻第
5号に綴じ込みました。委員会の
ひとつの仕事は一段落したものの、
現在、国家試験実技の問題作成に
入っています。これはどんな問題
が考えられるかというところまで
が、今期の委員会の仕事で、その
後は次期の委員会に引き継ぎたい
と考えています。委員の先生方、
仕事はまだ終わっていませんが、
お疲れ様でした。



ニュース 新任教授紹介

河野文昭先生（徳島大学歯学部附属病院総合
歯科診療部教授）

小正 裕先生（大阪歯科大学高齢者歯科学講
座教授）

国際渉外委員会委員長：古谷野 潔（九州大学
大学院）

国際渉外委員会という、JPDの投稿のお世
話が主な仕事という認識でした。そのJPDもお

世話していた1編が無事掲載されたのでホッと
しています。今期は川添会長の肝いりで大韓歯科補
綴学会との交流がスタートし、計4度にわたる学
術大会での交流を経て、日韓の補綴学会の交流協
定の締結へと結実しました。また、一昨年は2度
の国際フォーラムを開催し、世界の補綴学の潮流
に耳を傾ける機会を得ました。San Diegoで開催
された第80回IADRにおいて、Prosthodontics
Groupと本学会でシンポジウムを共催することが
できました。Greater New York Academy of
Prosthodonticsと2003年12月にジョイント
ミーティングを開催することを決め、今年度の学
会に参加し、打ち合わせを行いました。結局JPD
以外にも数多くのプロジェクトに恵まれました。
本学会の国際化に少しは貢献できたかな?!

用語検討委員会委員長：井上 宏（大阪歯科大
学）

2001年5月21日の第1回用語検討委員会で、
川添会長から用語検討委員会の作業目標が「歯科
補綴学専門用語集一疾患・病名・検査編」の編纂
であることが明示されました。短期期限付きで仕
事を完徹するためには、その目的と手順そして時
間スケジュールを明確にしておくことの大切さを
痛感し、常に仕事の進捗状態の報告を義務づけた
会長の手腕が勉強になりました。用語検討委員会
メンバーの先生方の熱心な作業により、一応の編
纂が完了し、本会誌第47巻第1号に掲載される
ことは、メンバー一同の喜びとするところです。
この用語集が、21世紀の歯科補綴学の変革のト
リガーとなり、これまでの補綴学にはやや欠けて
いた検査、診断、治療計画という一連の医学的手
法が確立され、治療ガイドラインにつながれば幸
いです。

医療問題検討委員会委員長：伊藤 裕（愛知学
院大学歯学部）

本委員会は、1)金パラジウム銀合金に代わる
代替材料、2)残根のコンポジットレジンによる
根管封鎖や歯面被覆、3)「欠損」病名に代わる新
しい病名設定、の各項目について本学会の意見を
取りまとめるというテーマを背負って出発いたし

ました。このうち、3)の新しい病名については、
機能の評価とか、技術的難易度といった切り口を
もとにいろんな検討を進めてきましたが、結局、
教育問題検討委員会、用語検討委員会、ガイドラ
イン作成委員会とのすり合わせを重視し、「欠損」
病名にとられない7項目の病名を提案し、理事
会の承認をいただいております。そして、1)、2)
の案件につきましては、一部、総説として本会誌
に掲載させていただいておりますが、平成15年
2月の委員長会、3月の理事会に向け、全体の総
括を作成しているところです。

また、任期中には日本歯科医師会や歯科医学会
からさまざまな諮問を頂戴し、その都度、委員の
先生方にはご苦勞をお掛けいたしました。次期委
員会への申し送り事項など、仕事はまだ残っ
ておりますが、これまでの委員の方々のご協力に
は心より感謝いたしております。

会則等検討委員会委員長：天野秀雄（明海大学
歯学部）

川添会長のもとで行った主な活動は、本学会会
則の一部を英文誌の発行と準会員の設置が承認さ
れたことに伴って2回改正しました。そして、中
堅優秀論文賞、特定推進研究優秀論文賞、また課
題口演優秀賞、デンツプライ賞の設置に伴って表
彰制度に関する規定の一部と優秀論文賞推薦内規
の一部を2回改正しました。

各委員会ともに今期の目標達成に向けてよく頑
張ったと思います。

NC VERACIA

ナノテクノロジーと
機能的形態が融合した 新人工歯 **硬質レジン歯**

NC Veracia

医療用具承認番号 21100BZZ00751

NC ベラシア アンテリア

硬質レジン歯(前歯用)1組…¥780 色調：A1、A2、A3、A3.5、B2
形態：上顎5形態、下顎3形態

医療用具承認番号 21200BZZ00272

NC ベラシア ポステリア

硬質レジン歯(臼歯用)1組…¥1,040 色調：A2、A3、A3.5、B2
形態：上下顎各2種

価格は2002年11月現在の標準医院価格(消費税抜き)です。

世界の新技術・新製品
SHOFU 株式会社 松風
本社●〒605-0983京都市東山区福知山高松町11-1 TEL(075)561-1112(代)

ガイドライン作成委員会委員長：河野正司（新潟大学大学院）

補綴治療の分野から3つのテーマについて「診療ガイドライン」を2年間の任期中に作成せよ、と川添堯彬会長からご指示を受け、その責務の大きさに身震いしたのは1年半前でした。医療改革が進行していく現在、「診療ガイドライン」が存在して初めてほかの医療分野との種々の話し合いのテーブルに着けるのであるから、このガイドラインの作成が急務であるということは十分に理解できます。しかし、2年間の任期中に製作する任を、わが身に託されるとは思ってもいなかったことであります。

曲がりなりにも3種のガイドラインがこうして誕生できたのは、聡明・優秀な6名の委員の先生方の働きがあったからであり、重ねてその労に感謝申し上げます。世に出たこのガイドラインが、学問の進歩とともに改訂を重ねて進化していくことを望んでいます。

広報委員会委員長：山内六男（朝日大学歯学部）

「執行部の活動状況を迅速かつ正確に会員に周知する」ことを活動方針とし、学会独自の広報媒体であるニュースレターとホームページにより広報活動を行いました。しかし、学会情報を十分に会員の先生へお伝えできたのかとの反省ばかりです。また、「広く会員からの声を吸い上げ、役員会協議へ反映させる」ために学会専用のメールアドレスを設けましたが、会員からの質問やご意見はあまりなく、ホームページからの書き込みなど、会員の意見を吸い上げるシステムの構築の必要性を感じました。

一方、目標として掲げた、「海外への本学会広報を積極的に行う」、「市民への情報提供を活発に行う」、などについては、不十分な成果しかあげられず、次期委員会で積極的に行っていただきたいと思えます。

認定審議会委員長，同小委員会委員長：石橋寛二（岩手医科大学歯学部）

「認定医の増強」を掲げた認定審議会活動を振

り返ってみますと、「予想以上に反響が大きかった」のひとつに尽きる気がします。このことは、認定医に対する社会の期待が増し、それに比例して本学会員一人ひとりの意識が高まった結果と思われる。この背景を反映して認定医申請者数が着実に増加し、更新率にいたっては大幅な上昇となりました。年2回の認定医研修会が定着したことも、このような結果をもたらすうえで寄与したと思われます。認定医申請者数の施設間格差などの課題はあるものの、補綴の専門性が問われる大きな転換期に、皆様のお力をお借りしながら認定審議会が微力を添えることができましたことに感謝いたします。

英文誌発行準備委員会委員長：川和忠治（昭和大学歯学部）

川添堯彬会長のもと、今期重点項目の1つとして英文誌を発刊することが提案されました。その意向を受け、今期新たに設立された委員会です。その目的は、本学会の国際化の一環として、本学会から世界に向けての学術情報の発信をすることにあります。委員会では今期の発刊を目指して、学会会則の一部改正、補綴誌投稿規定の一部改正、英文誌投稿規定、英文誌名などについて協議しました。幸いにも会員の皆様方の賛成を得ることができ、和文誌を年間5号、英文誌を1号分とし、2002年10月に英文誌名を「Prosthodontic Research & Practice」として第1巻第1号を発刊することができました。

**優れた機能性と
高い審美性を追求しています**



ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社

〒108-0074 東京都港区高輪3-26-33 秀和品川ビル6F

TEL. 03-5423-4491 FAX. 03-5423-4521

<http://www.nobelbiocare.com>

平成 15, 16 年度役員を紹介

第 108 回学術大会時の臨時総会において平成 15・16 年度の役員が承認されましたので、理事、監事、支部長についてご紹介いたします。なお、委員会につきましては一部変更されています。また、評議員 243 名も承認されました。

会長：大山喬史（東京医科歯科大学大学院）

副会長

赤川安正（広島大学大学院）

野首孝祠（大阪大学大学院）

理事

庶務担当：平井敏博（北海道医療大学歯学部）

学術担当：河野正司（新潟大学大学院）

編集担当：石橋寛二（岩手医科大学歯学部）

会計担当：櫻井 薫（東京歯科大学）

国際渉外委員会委員長：古谷野 潔

（九州大学大学院）

用語検討委員会委員長：田中貴信

（愛知学院大学歯学部）

医療問題検討委員会委員長：市川哲雄

（徳島大学歯学部）

会則等検討委員会委員長：細井紀雄

（鶴見大学歯学部）

広報委員会委員長：冲本公繪

（九州大学大学院）

法人化担当委員長：川和忠治

（昭和大学歯学部）

実技教育検討委員会委員長：皆木省吾

（岡山大学大学院）

研修教育検討委員会委員長：川崎貴生

（北海道大学大学院）

生涯学習検討委員会委員長：早川 巖

（東京医科歯科大学大学院）

認定審議会委員長：矢谷博文（岡山大学大学院）

監事

藤井弘之（長崎大学大学院）

宮地建夫（東京支部）

支部長

東北・北海道支部：木村幸平（東北大学大学院）

関越支部：野村修一（新潟大学大学院）

東関東支部：松本敏彦（日本大学松戸歯学部）

東京支部：早川 巖（東京医科歯科大学大学院）

西関東支部：森戸光彦（鶴見大学歯学部）

東海支部：五十嵐順正（松本歯科大学）

関西支部：江藤隆徳（大阪歯科大学）

中国・四国支部：中尾勝彦（中国・四国支部）

九州支部：佐藤博信（福岡歯科大学）

（敬称略）

第 108 回日本補綴歯科学会学術大会報告

平成 14 年 10 月 11 日（金）、12 日（土）の両日、名古屋国際会議場において第 108 回学術大会並びに臨時総会が藤井輝久教授（朝日大学歯学部歯科補綴学講座）を大会長として開催されました。今回、メインテーマを「新しい歯科補綴のパラダイムー歯科補綴の専門性一」とし、メインテーマに沿った、特別講演「岐路に立つ歯科補綴学」、ならびにメインシンポジウム「歯科補綴の専門性」が行われ、歯科補綴における専門性に関して熱のこもった討議がなされ、かなりの成果を得ることができました。そのほか、臨床シンポジウム、教育講演、緊急シンポジウム、臨床教育研修、研究教育研修、技術・技工セッションが行われ、約 1,900 名が参加しました。

翌 13 日（日）には、第 7 回認定医研修会ならびに認定医申請ケースプレゼンテーションが行われました。

第 108 回学術大会では、KAP からの参加に加えて、中華民国補綴学会からも参加があり、合計約 30 名の海外の先生方が本学術大会に参加されました。また、今回で 3 回目となった国際セッションでは、口頭発表 4 題、ポスターセッション 14 題が行われました。

課題口演優秀賞受賞者紹介

第108回学術大会では、課題口演には30演題と過去最多の応募がありました。厳正なる審査の結果、優秀賞を下記の6名の先生方が受賞されました。

「歯のガイドと作業側下顎頭外側極および内側極の運動様相の三次元分析」

細貝暁子，河野正司（新潟大学大学院）

「噛みしめ時の臼歯部隣接歯間接触強さと咬合接触部位の関係」

呉 相鎬，中野雅徳，坂東永一，重本修伺，西川啓介，松浦広興，石川輝明，竹内久裕（徳島大学歯学部）

「大臼歯全部鑄造冠のマージン部に付着するプラークのpH値と齲蝕原性細菌数の関係」

田中順子，権田幸子，西川 学，松島恭彦，龍田光弘，田中昌博，川添堯彬（大阪歯科大学）

「高耐久性加熱重合型アクリル系軟質義歯裏装材の開発—粘弾性と架橋剤添加の有効性—」

村田比呂司，洪 光，地守宏紀，檜崎泰史，川村真弓，濱田泰三（広島大学大学院）

「チタン表面上におけるマクロファージからのBMP-2の発現」

武部 純，工藤 努，石岡道久，兼田昌明，伊藤創造，塩山 司，石橋寛二（岩手医科大学歯学部）

「下顎骨骨梁構造に関するバイオメカニクス—臼歯部インプラントにおける咬合力方向の影響—」

十河基文，前田芳信，玉川裕夫，清水孝弘，堀坂充広（大阪大学大学院）

デンツプライ賞受賞者紹介

第107回学術大会から創設されたデンツプライ賞が、第108回学術大会から学術大会参加全評議員による投票により、口演発表・臨床口演、ポスター発表について、有床義歯、クラウン・ブリッジ、そのほかの3分野で6演題が選ばれることになりました。今回は、以下の6名の先生方が受賞されました。

口演発表・臨床口演

「咬む力が測定可能な口内描記装置について」

宇佐美博志，加藤栄蔵，森 隆司，田中真介，川口豊造（愛知学院大学歯学部）

「顎関節症患者の多次元評価プロトコール作成のための予備調査結果 第1報 摂食困難性」

羽毛田 匡，杉崎正志*，木野孔司，伊介昭弘*，児玉純子*，雨森陽子，渋谷寿久，佐藤文明，小林明子，儀武啓幸，石川高行，佐藤麗奈，依田哲也**，渋谷智明***（東京医科歯科大学大学院，*東京慈恵会医科大学，**東京大学，***九州歯科大学）

「キャストブルセラミックスにおける静疲労および繰返し疲労の影響について」

加来 賢，高橋英和，北崎祐之，三浦宏之（東京医科歯科大学大学院）

ポスター発表

「全部床義歯の装着が無歯顎者の身体平衡に及ぼす影響—新義歯装着と歩行安定性—」


藤波由希子，平野滋三，渡辺一騎，早川 巖（東京医科歯科大学大学院）

「補助的保持形態が補綴装置の保持力に及ぼす影響—咬合面孔について—」

清水太加志，長田貴幸，割田研司，藤島昭宏，宮崎 隆，川和忠治（昭和大学歯学部）

「顎骨データを用いた骨粗鬆症診断の可能性に関する基礎的検討」

田中みか子，大橋直子，河野正司，江尻貞一（新潟大学大学院）

 ニュース 診療ガイドライン関連記事が「アポロニア21」に掲載される

川添堯彬会長，河野正司ガイドライン作成委員会委員長，小林 博ガイドライン作成委員会幹事，山内六男広報委員会委員長と日本歯科新聞による診療ガイドラインに関する座談会が行われました。座談会では，診療ガイドラインの作成の意義などについて活発に話され，その内容が平成15年2月発行の「アポロニア21」（日本歯科新聞社刊）に掲載されました。

是非一度ご覧下さい。

名誉会員紹介

以下の3名の先生が名誉会員になりましたので、ご紹介します。

内田康也先生（昭和11年3月14日）

略歴

九州歯科大学卒業
九州歯科大学教授
九州歯科大学学長

学会活動

日本補綴歯科学会理事
日本補綴歯科学会監事

羽生哲也先生（昭和11年7月10日）

略歴

大阪歯科大学卒業
福岡歯科大学教授
福岡歯科大学情報図書館長
福岡歯科大学附属病院長
学校法人福岡歯科学園理事

学会活動

日本補綴歯科学会理事

守川雅男先生（昭和11年9月25日）

略歴

九州歯科大学卒業
九州歯科大学教授
九州歯科大学副病院長

学会活動

日本補綴歯科学会評議員
日本補綴歯科学会九州支部支部長

欠損に代わる病名について

医療問題検討委員会では、欠損（MT）に代わる病名の付託を受け、歯科補綴治療の対象となる新病名の検討を行ってまいりましたが、以下のような案を提出しました。

1. 歯質・少数歯欠損による咬合咀嚼障害
2. 歯列部分欠損による障害
3. 無歯顎による障害
4. 顎顔面欠損による障害
5. 咬合異常
6. 顎機能障害
7. 歯の変色・着色による障害

今後は、この案に基づき次期の委員会においてさらなる協議がなされるはずです。

認定医ケースプレゼンテーションの現況

本学会では、認定医制度を平成2年に制定し、これまで約1,300名に認定医資格を授与してきました。初期には暫定措置が設けられていましたが、現在では申請に際して、ケースプレゼンテーションが義務づけられています。この形式での認定医取得者は161名です。ケースプレゼンテーションに出されてくる症例は、全部床義歯、部分床義歯、Cr & Br、顎関節症、審美、インプラント補綴、顎顔面補綴がほぼ類似した割合で出されています。この結果から、本学会の認定医が、広範囲な治療をカバーしていることがわかります。

ここ数年、年間20名前後の申請がなされていますが、さらなる発表を期待しています。

論文に「認定医症例報告」追加される

従来、認定医審査で合格と認められた場合、事後抄録を「認定医ケースプレゼンテーション事後抄録」として学会誌に掲載していましたが、今回、これを発展的に「認定医症例報告」に変更し、論文として認めることになりました。論文の内容は、「原稿の内容は学術大会において、認定医申請のためのケースプレゼンテーションとして発表したものとし、症例報告に準じて記述する。原則として刷り上がり4頁以内とする。」です。詳しくは、新しい投稿規定をお読み下さい。なお、平成14年度までに発表された方は、旧規定で投稿していただきます。

本学会誌に倫理規定制定される

日本補綴歯科学会雑誌投稿規定に、以下のような倫理規定が制定されました。

「ヒトを研究（実験）対象とする内容については、ヘルシンキ宣言を遵守して、倫理的に行われており、被検者あるいは患者にインフォームドコンセントが得られていなければならない。また所属施設の倫理委員会が設置された後の研究については当該委員会の承認を得ていること。

動物を研究（実験）対象とする内容については、所属施設の動物実験委員会が設置された後の研究については当該委員会の承認を得ていること。また各種の動物保護や愛護に関する法律や基準に則していなければならない。」

以上ようになっておりますので、投稿に際しては十分ご注意ください。

第 109 回学術大会案内 (予報)

開催日：平成 15 年 5 月 9 日 (金), 10 日 (土)
会 場：品川区立総合区民会館「きゅりあん」
JR・東急線大井町駅前
〒140-0011 東京都品川区東大井
5-18-1
TEL・FAX：03-5479-4110
<http://www.shinagawa-culture.or.jp/curian/>

大会長：石上友彦教授
(日本大学歯学部補綴学教室局部床義歯学講座)

メインテーマ：「新しい歯科補綴のパラダイム
—補綴における美の追求—」

特別講演：「いい笑顔—コンピュータで探る—」
原島 博教授 (東京大学工学部電子情報工学科)

メインシンポジウム：「形態・機能美からトータルな美へ」(仮題)

臨床シンポジウム 1：「磁性アタッチメントを用いた補綴臨床」

臨床シンポジウム 2：「SDA (短縮歯列) のコンセプト—その運用と限界」

臨床教育研修：「診療ガイドライン」

研究教育研修：「医療における物語と対話—EBM vs NBM (Narrative based medicine)」(仮題)

技術・技工セッション：「歯冠色補綴における美の追求」

問い合わせ先：佐藤吉則

〒101-8310 東京都千代田区駿河台 1-8-13
日本大学歯学部補綴学教室局部床義歯学講座
TEL：03-3219-8144 FAX：03-3219-8350

第 8 回認定医研修会 (予定)

認定医ケースプレゼンテーション

開催日：平成 15 年 5 月 11 日 (日)

会 場：「きゅりあん」

プログラムなどの詳細は、学会誌第 47 巻第 2 号掲載予定の学術大会案内をお読みください。

第 110 回学術大会案内 (予定)

開催日：平成 15 年 10 月 24 日 (金), 25 日 (土)
会 場：長野県県民文化会館
大会長：甘利光治教授
(松本歯科大学歯科補綴学第 2 講座)
問い合わせ先：倉澤郁文
〒399-0781 長野県塩尻市広丘郷原 1780
松本歯科大学歯科補綴学第 2 講座
TEL：0263-52-3100 FAX：0263-53-3456

支部学術大会のお知らせ

東京支部

開催日：平成 15 年 3 月 15 日 (土)
場 所：日本学会館
大会長：芝 燦彦教授 (昭和大学歯学部有床義歯学教室)
特別講演：赤川安正教授 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科顎口腔頸部医科学講座)
「再生医学をベースとする新しい補綴治療」
谷口 尚教授 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面機能修復学講座)「モード解析・生体応用への挑戦—補綴領域—」

関西支部

開催日：平成 15 年 3 月 8 日 (土)
会 場：石川県歯科医師会館
大会長：野首孝祠教授 (大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能再建学講座)
特別講演：Susumu Nisizaki 教授
(ウルグアイ大学歯学部)
前田芳信教授 (大阪大学歯学部附属病院口腔総合診療部)



海外研究機関の紹介

Department of Restorative Dentistry,
University of Harvard
永井成美

私は、1981年に岩手医科大学歯学部を卒業後、石橋寛二教授のもと歯科補綴学第二講座に20年在籍し、2001年8月に同講座講師を退職しました。その後、ハーバード大学に移りFull time facultyとして、現在週2日臨床、2日教育、1日研究の体制で働いています。

今回、ボストンから2つの研究機関を紹介しします。

まず、私のボスである Hans-Peter Weber 教授の研究室をご紹介します。彼はスイスのベルン大学出身で、数少ないハーバード大学の Tenure full professor です。Periodontist かつ Prosthodontist でもある彼の主な研究テーマは、Analysis of implant/peri-implant tissue interface and immediate loading で、また彼の研究室では、“Peri-implant tissues around dental implant with various transmucosal configurations after healing and long term functional loading” および “Use of palatal implants for anchorage in orthodontic therapy” の臨床試験を行っています。日本でも ITI インプラントの講演をなさっており、研究・教育と同時にインプラントのオペと補綴をこなすオールマイティーな教授です。私は、石橋講座での研究を土台とし、Maxillofacial prosth-

esis の色彩学的研究を行っています。

次にボストン大学 Dan Nathanson 教授の Department of Restorative Sciences and Biomaterials を紹介します。石橋講座と共同研究を重ねてきた彼は、私がボストン大学留学時の Mentor で、イスラエルのヘブライ大学出身です。彼の研究室では、“A laboratory and clinical investigation of a new fiber reinforced resin post and core”, “Evaluation of performance parameters of new resin cements”, “Evaluation of prosthetic CAD-CAM systems”, “Characterization of new indirect restorative resins” などの研究が行われています。基礎・臨床研究に基づいた彼の講演は、最高の評価を受けており、世界中からの講演依頼により地球を駆け回っている超多忙な教授です（講演のシナリオは趣味である自家用機の操縦中に考えるとのことです）。



左から著者と Dan Nathanson 教授



左から著者と Hans-Peter Weber 教授

神奈川歯科大学歯科補綴学講座 木本克彦
2002年の春、カルフォルニア大学ロサンゼルス校歯学部にてワイントロープ生体再建工学センターが完成しました。1997年にすでに発足しているこのセンターは、顎顔面の欠損や機能障害をもつ患者のQOLを改善することをビジョンに掲げた、新たな補綴系学際的研究機関です。このセンターの特色は、Clinical researchとBasic research、そしてそれらを有機的に結びつけるTranslational researchの3つの部門から構成されていることです。Clinical research部門には、口腔機能評価研究室 (Dr. N Garrett), Basic research

部門には、組織工学研究室 (Dr. I Nishimura) と細胞生物学研究室 (Dr. A Jewett), Translational research 部門には、遺伝子治療研究室 (Dr. T Ogawa) と生体材料研究室 (Dr. B Wu) が現在所属し、活発な研究活動を行っています。

筆者が留学した口腔機能評価研究部門は、このセンターで主に補綴治療に関する臨床試験を担当しており、Dr. N Garrett が主宰しています。彼は、Psychology のバックグラウンドをもつ補綴臨床研究者です。それに加えて、当センターの副所長を務めているほかに、ベテランズホスピタルの Oral Biology Research Laboratory の所長も兼任しています。彼の研究室のテーマは、1. 補綴治療の機能および心理学的評価、2. Aging と口腔機能、3. 長期臨床試験のデザイン、4. 新たな治療術式、新規材料の評価など、多岐にわたります。また現在は、インプラント治療と顎顔面補綴治療についていくつかの臨床試験を行っています。今のアメリカにおいて、よくデザインされた臨床試験を行っている数少ない研究室です。

なお、ワイントロープ生体再建工学センターについての詳細は、下記にアクセスしてください。
(<http://www.weintraub.dent.ucla.edu/>)



Dr. N Garrett

関連学会案内

第 30 回日本顎口腔機能学会

開催日：平成 15 年 4 月 19 日 (土)

会場：岡山大学歯学部第一講義室

大会長：皆木省吾教授

(岡山大学大学院医歯学総合研究科咬

合・口腔機能再建学分野)

20 周年記念特別講演：石岡 靖先生 (新潟大学名誉教授)、丸山剛郎先生 (大阪大学名誉教授)、長谷川成男先生 (明倫短期大学教授)

20 周年記念公開シンポジウム：「顎機能異常 (顎関節症) と関連医学の接点を求めて」

問い合わせ先：白井 肇 (岡山大学大学院医歯学総合研究科咬合・口腔機能再建学分野)

TEL：086-235-6687 FAX：086-235-6689

第 40 回日本歯科理工学会

開催日：平成 15 年 4 月 18 日 (金)、19 日 (土)

会場：学術総合センター (東京都)

大会長：浜中人士教授

(東京医科歯科大学生体材料工学研究所金属材料分野)

問い合わせ先：一世出版

TEL：03-5280-8007 FAX：03-5280-8001

<http://www.soc.nii.ac.jp/jsdmd/>

第 16 回日本顎関節学会

開催日：平成 15 年 7 月 10 日 (木)、11 日 (金)

会場：鹿児島市民文化ホール

大会長：伊藤学而教授

(鹿児島大学歯学部歯科矯正学講座)

主 題：顎機能障害患者の病態生理と治療法

特別講演：Friction JR 教授 (University of Minnesota) 「TMJ/Orofacial pain」

岡村 均教授 (神戸大学大学院医学系研究科脳科学講座分子脳科学分野)

「生体リズムと時間臨床医学：時計遺伝子から疾患へ」

樋口逸郎講師 (鹿児島大学医学部第三内科) 「骨格筋における筋病理の最近の知見」

シンポジウム：「顎機能障害の病態と治療法」

その他：一般口演、ポスター講演など

問い合わせ先：黒江和斗 (鹿児島大学歯学部歯科矯正学講座)

〒 890-8544 鹿児島市桜ヶ丘 8-35-1

TEL：099-275-6252 FAX：099-275-6258

<http://www.hal.kagoshima-u.ac.jp/kyuousei/tmd.html>

第 33 回日本口腔インプラント学会

開催日：平成 15 年 7 月 19 日 (土)、20 日 (日)

会 場：名古屋国際会議場
 大会長：蒔田真人先生（敬天堂歯科医院）
 メインテーマ：「わが国における口腔インプラントの最先端」
 特別講演 1：上田 実教授（名古屋大学大学院）
 「ティッシュエンジニアリング材料を応用したインプラント治療」
 特別講演 2：三次正春先生（香川県立中央病院歯科口腔外科）「インプラント治療のための歯槽骨延長」
 シンポジウム：「口腔インプラントにおける骨造成の最先端」
 その他：一般口演，教育講演，認定医更新用教育講座，招待セッション，コデンタルセッション
 問い合わせ先：蒔田真人（敬天堂歯科医院）
 静岡市呉服町 1-4-6 松浦ビル 2F
 TEL：054-251-0108 FAX：054-251-0359
<http://www.shika-implant.org/>

第 7 回日本顎顔面インプラント学会

開催日：平成 15 年 9 月 13 日（土），14 日（日）
 会 場：愛知学院大学楠元学舎
 大会長：栗田賢一教授（愛知学院大学歯学部口腔外科学第 1 講座）

患者さんにやさしいリベース材として
 好評のトクソーリベース。
 その伝統をさらに進化させて、
 トクヤマリベースⅡは誕生しました。
 もっと低収縮、もっと低熱硬化、
 遠方に遠隔で、ずっと割りやすい。
 「今のままで満足？」などとおっしゃらずに、
 その真価、ぜひ臨床の場でお確かめください。

最新型
 トクヤマリベースⅡ
 歯科用補綴用レジン(リライニング材)

株式会社トクヤマデンタル
 〒410-0201 静岡県浜松市東区東山 1-1-1
 TEL: 053-433-8001 FAX: 053-433-8002
<http://www.tokuyama-dental.co.jp>

関連国際学会案内

81 th International Association for Dental Research (IADR)

開催日：平成 15 年 6 月 25 日～28 日

会 場：Svenska Massan, Göteborg, Sweden
<http://www.dentalresearch.org>

10 th Meeting of the International College of Prosthodontist (ICP)

開催日：平成 15 年 7 月 10 日～12 日
 会 場：Halifax Nova Scotia, Canada
<http://www.icp-org.com>

3 rd International Symposium on Sports Dentistry and Dental Trauma

第 14 回日本スポーツ歯科医学会共催

開催日：平成 15 年 7 月 26 日（土），27 日（日）
 会 場：京都府歯科医師会館
 大会長：前田芳信教授（大阪大学歯学部附属病院
 口腔総合診療部）

問い合わせ先：同上

TEL：06-6879-2386 FAX：06-6879-2387
<http://plaza.umin.ac.jp/~issddt/index.htm>

13th Congress of International College of Cranio-Mandibular Orthopedics (ICCMO)

第 17 回日本顎頭蓋機能学会 (JACMO) 共催

開催日：平成 15 年 10 月 3 日（金）～5 日（日）
 会 場：国立京都国際会館
 大会長：山下 敦先生（岡山大学名誉教授）
 山内六男教授（朝日大学歯科臨床研究所
 附属歯科診療所）

特別講演：Dr. Yamashita Atsushi (Professor
 Eritus of Okayama University) 「Clinical
 evidence of neuromuscular occlusion」

Dr. Barry Cooper (New York, USA)
 「The role of computerized measurement
 devices in the establishment of a
 neuromuscular occlusion as the
 treatment of temporomandibular
 disorders」他，4 演題

その他：テーブルクリニック 9 題，一般口演，ポ
 スター発表

問い合わせ先：山内六男（朝日大学歯科臨床研
 究所附属歯科診療所）

TEL：058-253-7272 FAX：058-255-0350
<http://www.iccmo-jp.org/>

本学会と Greater New York Academy of Prosthodontics とのジョイントミーティング (予定)

開催日：平成 16 年 12 月 4 日

開催地：New York (USA)

詳細は後日お知らせします。

関連学会報告

第 12 回日本磁気歯科学会

平成 14 年 11 月 16 日 (土), 17 日 (日) に長野第一ホテルにおいて, 五十嵐順正教授 (松本歯科大学歯科補綴学第 1 講座) を大会長として開催されました。今大会では一般口演 12 題, 特別講演, およびメーカ各社からの特別発表が行われました。特別講演は, 「磁力線とその磁気補綴への応用」と題して, 博士国際共同研究所所長・信州大学名誉教授の山田 一先生により行われました。講演では, 磁気工学の立場からみた磁力線の性質, 歯の動きの三次元計測および磁気式咀嚼カウンタなどについて解説がなされました。また, 総会において, 東京医科歯科大学名誉教授の藍稔先生と九州歯科大学名誉教授の豊田静夫先生に学会名誉会員の称号授与が行われました。

関連国際学会報告

第 5 回国際顎顔面リハビリテーション学会 第 19 回日本顎顔面補綴学会併催

平成 14 年 10 月 3 日 (木)~5 日 (土) に沖縄の万国津梁館において併催されました。

演題数 126 題, 参加者約 300 名, 海外参加者 120 名, 世界 20 カ国からの参加でした。まだ海水浴ができる気候のなかで, 大会長大山喬史教授 (東京医科歯科大学大学院), Ian M. Zlotolow 先生 (ニューヨークメモリアルホスピタル) により盛大に開催されました。ポスターセッションはアルコールを片手に論議も盛んに行われ楽しい雰囲気でした。この学会は口腔外科医と補綴科医が多く参加し, 両者の学術的な交流が行われる学会です。

第 6 回国際顎顔面リハビリテーション学会はオランダで 2004 年に, 第 20 回日本顎顔面補綴学会は鶴見大学で行われる予定です。

第 4 回国際歯科材料学会議

2002 年 10 月 29 日から 11 月 1 日の 4 日間, オアフ島のハワイコンベンションセンターにおいて第 4 回国際歯科材料学会議が開催されました。本学会も今回で 4 回を迎え, レビュー講演 10 題に加えて, 口頭発表 19 題, ポスター発表 232 題, 合計 251 題と多数の発表があり, 日本から約 400 名が参加しました。

本学会はこの会議を協賛しており, 学会を代表して寺田善博教授 (九州大学大学院) により「The outlook on porcelain-fused-to-metal crowns」と題してレビュー講演がありました。また, 座長を新谷明喜教授 (日本歯科大学) が務められました。

新指導医・認定医紹介

以下の先生方が新しく指導医, 認定医になりましたのでご紹介いたします。

指導医

許 重人, 小松原浩実, 野村章子, 黒川裕臣,
平賀 泰, 松村光明, 向山 仁, 小城研二,
酒井敏博, 西村克彦, 片山繁樹, 宮本 諭,
高橋晃子, 今井崇隆, 林 昌二, 宇佐美博志,
塚本信隆, 池邊一典, 古谷昌義, 佐藤修斎,
小田正秀, 原 哲也, 西 恭宏, 嶺崎良人,
築山能大

認定医

三浦美文, 鈴木政弘, 村田容子, 櫻井直樹,
小見山 道, 大前百子, 濱 仁隆, 柳川明宏,
萬好哲也, 上田直克, 田中誠也, 平 曜輔,
添野光洋, 鎌田幸治, 大安 努

新入会会員紹介

以下の先生が新たに入会されました。今後の学会でのご活躍を期待します。

築詰朋彦, 福岡一馬, 林 雅輝, 永井愛正,
ツムラスビン・ワチャラサク, 山本達也,
瀬沼寿尉, 阿部兼也, 田所克裕, 佐々木 猛,
吉田俊吾, 赤坂恭一郎, 小倉 晋, 伊藤嘉洋,
加藤さゆり, 守 紀子, 小野綾子, 高森 等,

上山綾子, 片山 隆, 梶山晋介, 有坂 龍, 井本裕之, 菅野多真, 宇野 薫, 吉村美枝子,
 古宇田剛, 山中浩明, 藤井達郎, 磯野智子, 犬飼周佑, 前田晃一, 平林寛史, 犬伏留菜,
 野川華織, 齊藤真吾, 原 亮, 大坪 誠, 鶴身哲郎, 小池恭仁子, 千葉周一, 澤井康哲,
 吉田 浩, 齊間広憲, 一瀬昭太, 深谷雅浩, 毛利豪一, 杉本景子, 新井聖範, 藤田豊大,
 小田切男, 柴崎有紀, 藤田洋一郎, 藤井修美, 小田切憲, 青木宏道, 村山隆夫, 岡山啓昌,
 三宅忠隆, 門田成司, 渡上定治, 三浦浩輝, 野地美代子, 三浦賞子, 齋藤淳一, 谷口柚希,
 矢島 勲, 小林憲一, 木村 修, 中村圭祐, 渡邊信幸, 佐々木洋人, 原田聡之, 鎌田 優,
 新井宗高, 内藤光俊, 松井新吾, 管 順利, 木村五十鈴, 新井 元, 石橋弘子, 大橋弥恵,
 サイルンオヤ・エイヤ, 永松千代美, 金子尚樹, 吉田和代, 内田圭一郎, 加来 賢, 後藤洋介,
 河上 大, 段 友美, 徳永有美, 高田奈緒美, 三橋 裕, 梅川義忠, 富田貴志, 椿 賢,
 金山淳子, 原田 藍, 丹羽治一, 関 滋之, 佐々木充治, 小泉孝弘, 子田 浩, 高橋幸子,
 沖津決起, 川端智大, 今井智子, 渋谷智明, 西島 圭, 田中 剛, 入 秀行, 康田省互,
 齊藤達哉, 兒玉直紀, 安達 潤, 釜田 朗, 福原敏洋, 小室聖子, 戸倉有規, 山下真有美,
 斎藤高弘, 内山麻由子, 木下浩志, 今西恒夫, 北村真帆, 鷹尾智典, 大野登希子, 黒川佳子,
 守川朋宏, 的野良就, 中尾篤司, 橋本幸尚, 片岡展夫, 猪飼紘代, 三宅理史, 阿部俊信,
 金原大輔, 平島佳典, 長尾大輔, 魏 華, 羽田京太郎
 細川竜彦, 藤沼美穂, 瀧野真里, 上田恵子,
 蒔田信子, 田口裕哉, 杉本 淳, 横路武児,
 祐田尚紀, 中村輝保, 南 一郎, 中尾裕子,
 大郷友規, 谷野文宣, 富山尚子, 鈴木裕美子,
 柳堀聡子, 赤坂恵理, 花岡一誠, 浅川昭典,
 守屋佳典, 阪口貴盛, 島津千恵, 杉部樹理,
 増田景久, 竹永おりえ, 上原 忍, 城所寛美,
 伊藤雄策, 谷中正幸, 河合尚子, 金澤 学,
 菊池泰斗, 三浦啓伸, 小町谷美帆, 西田善紀,
 石川温子, 津田 順, 田中 淳, 菊池元宏,
 森 正浩, 野本俊太郎, 園田圭介, 永山 幸,
 土田裕郁, 中貴 弘, 星野高之, 水野克彦,
 岸 晃平, 久田邦博, 吉田 真, 青木美枝,
 玉木 仁, 佐藤俊男, 遠藤 壘, 北中のり子,
 佐藤繁久, 三好慶忠, 井坂詠子, 鈴木雄一郎,
 佐藤香織, 阿蘇龍治, 青木香保里, 札川貴資,
 原 聡, 小泉彰吾, 柴田香織, 船山守子,
 大塚正美子, 飯田浩之, 竹村雅宏, 大工原徹,
 松山雄喜, 相原俊武, 小池秀行, 國分暁子,
 村田辰夫, 浅野正司, 吉田茂生, 秋山志穂,
 本康盛昭, 中島章雅, 高須慶子, 小柳津 馨,
 熊野弘一, 長谷川雄一, 坂根 瑞, 山崎眞弘,
 仲西康裕, 長田知子, 仲吉暁美, 伊藤直樹,
 河野浩之, 黒野弘久, 海野哲郎, 三浦治郎,
 松村恭子, 佐藤 元, 岡本憲明, 長昌弘晃,
 進 千春, 大福地達也, 宮内秀明, 駒田 亘,
 竹田津和稔, 山田友宣, 相澤 悟, 関 威夫,

編集後記

ホームページ, ニュースレターからさまざまな情報や報告が会員の皆様に伝わる喜びを委員長の指導の下, 感じることができる仕事でした (TI).

2年間を通して委員長の精力的な取材と多大な労力をかけた編集作業にお付き合いさせて頂き, いろいろと学ばせていただきました. これらかもニュースレターをしっかりと読みたいと思います (YM).

委員長の大変さを垣間みられた貴重な2年間でした. 医局のホームページを開設するキッカケになり大変感謝しております. 有り難うございました (NK).

委員の先生方, 2年間にわたりお疲れ様でした. 委員会の席では, ほぼ完璧にまで仕上げられた委員長の原稿に赤を入れる程度であり, ただただ委員長の行動力に脱帽するばかりでした. 微力ながらこの会に参加できたことを大変光栄に感じております (SY).

ホームページの製作, 更新を主体に2年間, 微力ながらお手伝いさせていただきました. 私にとって大変貴重な経験となりました. お世話になり有り難うございました (MI).

各委員の先生のご協力により締め切りに遅れることなくニュースレターを発行することができました. 先生方有り難うございました (MY).